

第8回 高山市ごみ処理施設建設検討委員会 議事要旨

日 時：令和3年8月18日（水）午後1時30分～3時30分

会 場：高山市民文化会館 4階 4－7会議室

出 席：神原 信志 様（★委員長 岐阜大学工学部化学・生命工学科 教授）
川原 正巳 様（★副委員長 高山市町内会連絡協議会）
仲 康信 様（岐阜県建築士事務所協会飛騨支部）
伊藤 麻子 様（美しい景観と潤いのあるまちづくり審議会）
千嶋 邦彦 様（三福寺町町内会）
向田 照子 様（下三福寺町町内会）
濱口 崇欽 様（有斐ヶ丘町町内会）
井上 英司 様（東山台町内会）
山崎 達男 様（久々野まちづくり運営委員会）
前田 正弘 様（市民公募委員）
福田 仁重 様（市民公募委員）
溝際 清太郎 様（高山商工会議所）
大村 貴之 様（岐阜県環境整備事業協同組合飛騨支部）
村上 千恵 様（快適環境づくり市民会議推進委員会）
欠 席：義家 亮 様（名古屋大学大学院工学研究科機械システム工学専攻 准教授）
大森 清孝 様（高山市環境審議会）
村井 智子 様（飛騨高山旅館ホテル協同組合）
井上 博成 様（自然エネルギーによるまちづくり検討委員会）

事務局：

高山市副市長 西倉 良介
環境政策部 部長 小林 一正
環境政策部参事兼ごみ処理場建設推進課 課長 山腰 勝也
環境政策部生活環境課 課長 松井 ゆう子
環境政策部ごみ処理場建設推進課 資源リサイクルセンター所長 直井 哲治
環境政策部ごみ処理場建設推進課 係長 佐藤 郁央、小椋 政幸
環境政策部生活環境課 係長 巢内 崇博
環境政策部ごみ処理場建設推進課 係員 森 大輔

傍聴者：4名

- 次 第：1 開会
2 あいさつ
3 議題
 新ごみ処理施設基本設計提言書の確認について
4 その他
5 閉会

(配付資料)

- ・ 次第
- ・ 高山市ごみ処理施設建設検討委員会委員名簿
- ・ 第8回高山市ごみ処理施設建設検討委員会 席次表
- ・ 資料1 第7回高山市ごみ処理施設建設検討委員会 議事要旨
- ・ 資料2 提言書 (案)
- ・ 資料3 高山市新ごみ処理施設基本設計提言 (案)
- ・ 資料4 高山市新ごみ処理施設基本設計提言 (資料編) (案)

1. 開 会 (山腰ごみ処理場建設推進課長)

2. あいさつ (西倉副市長)

今回の第8回検討委員会は、第1回から第7回までの委員会において、当初予定していた検討事項について、概ね検討が終了したことから、過去の議論を振り返りながら、内容についてご確認いただきたいと考えている。そして各検討事項について検討委員会としての意見を取りまとめ、市へ提言書という形で提出していただく。

これまでの議論や意見等がこの提言書の中に網羅されているかどうかをしっかりとご確認いただいた上、委員会としての意見をまとめていただきたい。

3. 議 事

事務局 (山腰ごみ処理場建設推進課長) : 【資料3】説明

(委員長)

これまでの経過を全てまとめいただいた。これについて各委員から質問、文章の修正、付け足しなどを発言していただきたい。今回は最終段階であるため、全員の意見を聞いていきたい。

(委員)

これまでの検討した内容が非常に正確に文章になっており、わかりやすい。

少し議論から外れてしまうかもしれないが、お願いというか、確認したいことがある。

久々野の焼却施設は令和7年度で終了するため、久々野方面からの直接搬入をする場合の事を考え、新たな焼却施設までのアクセス道路について改善をしていただきたい。それについてはいかがか。

(事務局)

老人福祉施設の豊楽園側から資源リサイクルセンターへ上っていく道のことと思いますが、地元の皆様から道路整備の御要望をいただいております。今後、アクセスが良くなる様に道路整備を進めていきたいと考えております。

(委員)

環境学習のことで意見を述べたい。

市で行うリサイクルの分別、例えばペットボトルなどの分別は、当然市として費用がかかると思う。その中で家庭や企業が行えば削減できるであろう費用を数値化し、各家庭などでここまでやれば、市の税金がこれだけ少なくなるという数字を出して、環境学習の中に取り入れてもらえれば非常にいいと考える。見て分かりやすい環境学習の数値目標的なものを市として出していただきたい。

それから、ごみ減量化も別の組織で進めていただいていると思うが、そちらの方でいくつか提案をしたい。

1つは、先に述べた市のリサイクル費用を節減した実績について、各家庭や企業に対する表彰や報奨制度といったものは高山市には無いような気がする。依然として高山市でごみの減量化や正しいごみの出し方が進んでいないのは、やり方に問題があると私は思っている。リサイクルの費用を節減し、そのお金を市民や企業に還元していただくような制度を考えていただけたらいいと思う。

次に、各町内にいるリサイクル推進員に、ごみの出し方などの指導でもう少し活躍できるような制度にしていただきたい。特に私の今までの町内での経験からお話すると、高齢者の方は、もうごみの分別ができなくなってしまって、回収日でない日に生ごみを出してしまい、何日もごみが停滞して臭いといった苦情が結構来ている。そういったところを助けてあげるような指導をしていただけたらいいと思う。

最後は、高山市にはごみ処理券があり、ごみ処理券にはナンバーが入っている。個人情報の問題もあるが、ごみの出し方が悪い家庭については、ごみ処理券のナンバーから家庭を割り出して個別に指導していくような方法もあり得るのではないかと思う。

(事務局)

貴重なご提案をたくさんいただきまして、ありがとうございます。まさに今、この建設検討委員会のメンバーも含まれる減量化部会で、そういった議論をやらせていただいております。

委員ご指摘の分別の費用やCO₂の問題、収集のコストの問題などを、皆さんに知っていただくことも必要ではないかと考えております。

そのために、ごみの分析をして、分別されていないもの、食品ロス、プラスチックの分量を調べます。分別に伴うコストと、無料分のごみシールにかかるコストも含め、実はこれくらいのごみ処理費用がかかっているという話ができないか考えているところです。委員のご提案いただいた内容は、まさに今取り組もうとしているところでございます。新施設の完成に関わらず、このような環境学習は来年からでも始めていきたいと考えています。

また、各町内会の皆さまには、リサイクル推進委員等をご推薦いただき、ごみの適正処理や市内のポイ捨て防止についてご協力をいただいています。昨今は新型コロナウイルスの影響があり、ポイ捨て等防止委員の方が見回っていただける状況にはありませんが、毎年4月から5月にかけて、各町内のリサイクル推進委員等に集まっていただき、市からその役割についてご説明させていただいております。リサイクル推進委員については、ごみ捨てのマナーやステーションの管理についてお願いをしております。委員から市に情報をお知らせいただき、周知看板を立てたり、問題のあるステーションの監視、あるいは口頭で指導をさせていただいております。

ごみシールについては、委員がおっしゃるように、個人情報に係わることですので、番号から個人を特定できるようにはなっていませんが、問題のあるごみが大量に出る場所については、市にご連絡をいただき、監視や指導などの対応をさせていただきます。

(委員)

まず資料3の6頁、排ガスの自主規制値は大変すばらしい数値で、日本中どこでも自慢できる数値であるが、同頁一番下に「厳しい自主規制値を遵守するために、十分な人員配置と運営経費を確保すること」とある。これは排ガスの項目だけではなく、施設全てに関して書いていただきたい。排ガスも当然であるが、焼却炉自身の延命化ができないような予算しかつかないような状況であっては駄目なので、運営経費とか人員についても含めて、施設全体というニュアンスで記載していただきたい。

もう1つ、「施設運営に関すること」に関して、現施設を稼働しながら3年以上かけて新施設を建設することになる。それから新施設ができた後、現施設を取り壊し、その後資源化施設を作ると思われる。結果的に10年くらい後にならないと最終的な形にはならないため、工事期間中の対応も含めて、一番安全な体制を検討することも加えていただきたい。

それから、対面交通で右折部分があると一番危険だと考えている。実は今の施設は、最初は対面交通があったが、現在は対面交通をほぼゼロにしている。慣れてない人はごみを持っていったときに迷うこともあるかもしれないが、やはり一方通行は、安全性が高くなるので、そのことも十分に検討していただきたい。

(事務局)

排ガスだけではなく施設全体での適正な人員と予算の確保という文章を入れさせていただきたいと思います。

また、施設運営の動線とゾーニングの件は、工事中または将来の供用に支障のないように安全性を確保するよう文章を入れさせていただきます。

(委員)

提言書の内容に関しては全く問題がないと思っている。

1点質問だが、提言書の中で煙突の高さや処理方式など決定したことに関しては問題ないが、例えばエネルギー利用、事業方式、外観等、方針のみを決めている内容に関しては、今後どのような形で進めてどのようなチェックが入るのかということをお聞かせしてほしい。

(事務局)

エネルギー利用方針から以降につきましては、今のご指摘のとおり、「方針」という書き方をさせていただいております。今後、高山市として提言書と同じような形で方針をまとめさせていただきまします。その後、実際に施設を建てるための発注仕様書を作成します。ここでは、より具体的に、例えばエネルギー利用なら、どのくらいのエネルギーが発生するので、どういった発電機が必要だろうというように、施設を建てるためのより具体的な内容の仕様書を作成します。これにはプラント建設事業者を選定する委員会を別に設け、そこで発注仕様書を作成していきます。その選定委員会には、専門家の先生や、有識者の方に入っております。その発注仕様書を基に、プラント建設事業者から具体的な提案をいただく予定です。この現段階においては、「方針」ということでよろしくお願いいたします。

(委員)

別途、有識者の方が企画及びチェックをされるということなので安心した。

(委員)

資料3の12頁「施設運営に関すること」で、我々も施設を利用する立場として、動線や計量が非常に重要になってくると思うし、そこは一度決めてしまつたらなかなか後から変えにくいところなので、しっかりと議論をしたいところである。

ただ、今の時点での提案はなかなか難しい状況の中で、前回も会議で出たキャッシュレス化について、どこまで技術が進んでいるのか、最新の技術や状況がつかめていれば、お話ししたい。世の中のキャッシュレス化の流れの中で、地元では地域通貨の利用もされている状況なので、より地元関係者が使いやすい状況になればと思っている。その辺をぜひ次の委員会の議論の中で検討していただきたい。

(事務局)

先程説明させていただきましたように、事業者選定委員会でより具体的な発注仕様書を作成していきます。キャッシュレス化や計量、支払いの方法についても選定委員会の中で最新の状況を調べていく予定です。使っていただく方のご意見もいただく機会をつくりたいと思っていますので、そのときにはご協力いただきますようお願いいたします。

(委員)

私自身、いわゆる家庭という観点から見てきたこの検討委員会であるが、輪の中に入れていただきいろいろな資料や皆様の意見の中で勉強させていただき本当に喜んでいる。

完成までには想定外のことも出てくると思うし、そして検討を重ねるうちに、またその中からいいアイデアなどが出てくると思うが、私が思うのは、高山市民が自慢できる、高山の魅力を出した施設をつくっていただきたいことと、安全・安心な施設で、近隣の住民が「いい場所になった」と喜んで言っていただけのような施設にしていただきたい。

新しい施設ができ上がったときに、皆がごみの情報を知ることができ、また情報が聞こえてくるような施設で、本当にごみという身近な問題を、もっともっと考えていけるよう

な施設になったら良いと思っている。

提言書については、私自身知らないこともまだまだ沢山あるので、いろいろな考え方を勉強させていただきたいと思っている。

(委員)

私たちは、地域住民の代表という形で来ている。地域の不安を預けられたという感じがするので、そういった部分の代表になったという思いでこの検討委員会に参加させていただいた。

最後にまとめていただいたこの提言書は、全ての項目が基本設計として素晴らしいものが出来上がったのではないかと考えているし、持ち帰って地域の方々にも説明ができるつもりでいる。住民の中には非常に不安に思っておられる方もおられるが、私たちは毎日、直接的にも間接的にもこの施設を利用しているわけである。

この施設の建設を想像すると、提言書がまとまるにしたがって、どんどんワクワクしてくるような思いも少し私の中に芽生え始めた。いわゆる汚いだとか危険だとかというイメージが、この検討委員会を通じて、どんどん私の中からも消えていった。この提言の中の一番の魅力は、やはり日本を代表するというか、皆に誇れるという環境基準値である。この環境基準値が設けられたことに、市の方々の熱意や想いも非常に私たちに伝わってくるし、この施設の完成後には数十年維持をしなければならないということを想像すると、非常に大変なことなのだろうと思う。

そういうビジョンを持って市に提言することは、市も私たちと共に一緒になって考えていただけたということであり、ぜひこういう施設が身近にあってもいいのではないかと考える。それで私たちももっと施設に足を運んで、身近に感じて、ごみの減量に努めて、共に暮らしていくというような思いに至ると思う。

この提言については、基本設計として非常に素晴らしいものが出来上がったと思うので、是非、これを市長に提言していただきたい。

(委員)

この提言書を見させていただき、先の委員もおっしゃられたように、素晴らしいものができると感じている。

最近豪雨とか災害が多く発生している中で、資料3の10頁の「防災機能に関すること」の中で、大体何人ぐらいが収容できるような施設で考えているのかということだけ聞かせていただきたい。

あと、リサイクルセンターで井戸を掘っていると聞いたが、その井戸水は飲めるものなのか。いざ本当に災害になったときに使えるものなのか教えていただきたい。

(事務局)

まず、避難人数のことですが、実は今、市の防災担当部署と協議を進めているところです。当地域の指定避難所は斐太高校や北小学校、また東山中学校や東小学校があります。そこへ何人ぐらい収容するのか、また災害の種類によって逃げる場所が異なると想定して

いますので、この地域のレッドゾーンの状況や、そこにかかる家屋数がどれぐらいあるかなどを算定して、安心な広さを確保していかなければいけないと考えております。

昨今避難するよりは、かえって動かないほうが良いという状況もあります。指定避難所だと、一人当たり3.5平米という面積があれば、避難所として数日間過ごせるという基準があることから、避難想定人数と掛けて必要な面積が確保できるかどうかという検討をしていきます。場合によってはホールなどを避難所として使うことや、間仕切りや毛布などの備蓄品を配置するなど、これからしっかり検討していきたいと考えております。

また、井戸についてですが、現在水質検査用の井戸はありますが、飲み水用などに使っている井戸はありません。上水道を使用しており、ポンプで貯水槽まで汲み上げて、そこからリサイクルセンターと老人福祉施設の向陽園に配水しています。

停電の場合に備え、停電しても1週間ぐらい使えるぐらいの水を貯めておくなどの方策を考えなければいけないと思っております。

(委員)

近辺の4町内会に対して、1度説明に来てもらえるとありがたい。そうすれば、ここまで1年かけてやってきた結果や、詳しいことも市から説明するほうが住民にはっきり伝わると思う。

(事務局)

提言がまとまりましたら、町内会にご相談の上、説明会の開催や班長会などでの説明をさせていただきたいと考えています。以前説明会開催のお話もさせてもらっていましたが、新型コロナウイルスの影響で集会ができない状況がありました。

今回も町内会にご相談の上、開催を承諾していただけるようでしたら伺いますし、そうでない場合には、町内回覧などでご対応いただけるように準備したいと考えておりますので、よろしく願います。

(委員)

この提言書については、これ以上何も申し上げることはない。

今後、高山市担当課の方々には、地元町内との打ち合わせ協議などがあると思うので、苦勞をおかけすると思うがこれからもよろしく願いたい。

また、国内外を問わず、この施設へ研修というような形で高山へおいでいただいて、観光の一助にもなればありがたいと思っている。

(事務局)

今、4町内の代表にお話をいただきました。重責を担っていただきまして大変だったと思います。委員からは、新しい施設への希望的や期待感を伺いましたので、しっかり受け止めさせていただきます。清潔感があり、ごみ焼却場のイメージを変えられるような、皆様に情報発信できるような、ぜひそういった施設にしていきたいと思っておりますので、これからもご協力・ご理解の程よろしく願います。

(委員)

この資料を見て1年間勉強したことが思い出された。提言書はよくできていると思う。

資料3の4頁で、焼却能力95t/日の計算が書いてあるが、「1日」というのは「(24時間)」と書いていただくと説得力があり分かりやすい。

ごみ処理施設がきれいになり見学施設も充実するということなので、ぜひお願いしたいと思うことは、ニックネームをつけていただきたい。皆が口に出しやすくなり、小さい子供も親しみが持てる。そうすると、皆がごみのことを考えるようになり、市民全体のごみに対する意識がボトムアップされるのではないかと考えている。市民への募集などにより施設のニックネームを考えていただきたい。

(委員)

前回、建物の緑化、外壁・屋根の緑化の話が出たが、そのときは概ね良いのではないかと認識していたが、壁面・屋根の緑化というのは、建物の外壁を二重にして植栽をする。また植物なので、散水して水を与える必要があり、散水設備の設置など、イニシャルコストが大変高くなる可能性がある。また、資料に出てきた緑化事例施設は、きれいなイメージ写真が出されているが、世界的にも緑化については成功している事例が少ないので、そういったところも研究していただきたい。緑化をきれいに維持しようと思うと、散水や施肥、雑草撤去など日々の維持管理作業をしていかないときれいにならないし、建物も当然傷みやすくなる。そういったことを考えると、緑化に使うお金があれば、私としてはもっとほかにも有効に使えるお金が出てくるのではないかと考える。

それで、資料3の11頁の「その他建築意匠に関連して検討すべき事項」に、「里山景観との調和を図り、緑化を取り入れる」という文章で、「緑化」という言葉が出てくるが、建物を緑化しても、建設予定地の立地がかなり緑の多いところであるから、そこまでやる必要があるのかと思う。外構を緑化することについてはやぶさかではないが、建物を緑化するというイメージの表現は、やめたほうがいいのかと思う。

それと資料3の10頁「防災機能に関すること」で前回、構造体の安全性の目標設定値がⅡ類ということであった。Ⅱ類で十分であると思うが、この施設は、災害時の避難場所になるということや、防災倉庫としても使われるのでかなり大事な施設となる。

また、過去の経験から水害では、かなり多くのごみが出てくると考えられる。今年だけに限らず、今後毎年大集中豪雨による災害でごみが沢山出てくる状況を想定すると、その災害ごみを処理していく必要があることから、この構造体のⅡ類というのではなくて、Ⅰ類に行かなくても、それに近い構造であってもいいのかなと思う。

建築基準法の耐震基準は、大地震がある度に改正されて、耐震基準が強化されていく状況を考えれば、本当に今このⅡ類でいいのか、もっとⅠ類に近くてもいいのではないかと考える。

工夫をすれば建築価格は安くても、構造的な耐力を上げる計画の仕方はいくらでもあると思うので、安価でなおかつ建物の強度が得られるような、そういった計画の段階から考えていき、できるだけⅠ類に近いものにする考えがあっても良い。

私は建築士事務所協会から来ており業界の話になるが、高山は積雪寒冷地であり温暖な地域と気候が違うため、建物計画の段階で配置や形状を寒冷地、積雪地に合った建物にし

なければならないと考えている。そういう面で地元の設計事務所が関わっていける部分があるといいと思っている。

工事に関しても、やはり積雪寒冷地に慣れてない業者だと、排水・配管の凍結の問題が分からないことや、冬場の施工時に積雪で滑って危険な状態であることなどを、地元の業者と一緒に施工ができるような仕組みを要望として考えていただきたい。

最後に、先の委員から、会議が進んでだんだんとワクワクしてきたという話をされた。施設を作るときに、いい話し合いができて、施設を皆さんで作っていけるような状況になれば、ワクワクしてくるということだと思った。こういう感覚を皆さんで持っていただけるように、市の方から建設にかかる情報を随時いろいろな媒体で発信していただければありがたい。

(事務局)

資料3の11頁の建築意匠のその他検討すべき事項についてですが、以前この建築意匠の会を開かせてもらったときに、緑化に対する意見もいくつかありましたので、入れさせていただきます。

今、委員が言われたように、緑化は非常に難しいということや、お金もかかるということは承知しております。緑化事例施設のような全面緑化は非常に難しいと認識しておりますが、検討の余地は残したいと考え、ここに文章を入れさせていただきます。

資料3の10頁の構造体Ⅱ類が、Ⅰ類のほうがいいのではないかというご意見についてです。Ⅰ類は例えば、市役所本庁舎や総合病院といった建物で、非常に地震にも強い構造体であることは認識しております。今回Ⅱ類にした理由としましては、環境省のごみ処理施設の耐震基準の考え方がⅡ類ということでございます。

それと、ごみ処理施設を避難所として活用することも考えていますが、地域防災に掲載されている指定避難所についても、構造体はⅡ類で大丈夫であるということから、この施設においてもⅡ類で考えているところです。Ⅰ類になりますと、非常に頑丈な物是可以するのですが、現在のところⅡ類でいいのではないかという見解で記載させていただいています。

次に、地元の設計事務所との関わりというお話ですが、ごみ処理施設の発注方法は、設計と施工を同じ業者が行う性能発注方式で行います。市で事前に図面を書いて発注するのではなく、発注仕様書を示して設計と施工を同時に発注します。

これだけの規模になりますので、一般競争入札で全国から募集していくことになります。事業者を選定する際には、金額だけではなく総合評価方式で、技術提案もしていただき、その内容を点数化し、業者を選定します。詳細はまだ決まっていますが、おそらくプラント建設事業者は、地元の方とJVを組んで工事を施工していただくことになろうかと思えます。

私どもも積雪寒冷地のことは維持管理上も十分に意識していかなければいけませんので、そういった部分は、市でしっかりと落札した事業者にお伝えさせていただきたいと考えております。とりわけ設備関係については、地元の方や代理店の方が入られるようなことが多いように伺っております。その辺も意識しながら、積雪寒冷地でもしっかりと維持管理できるような施設にしてまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

(副委員長)

昨年、暑い8月に第1回建設検討委員会が現施設の会議室で行われてから、今日の委員会に至るまで、それぞれの委員の立場や意見で、慎重に審議をしていただきました。形だけの委員会とは違いました。高山市民全体に愛される施設、そして地元の皆さんにこよなく愛される、そういう施設ができるためには、この委員会はなくてはならないような、そういう会議であったと思っています。前の施設建設時にも、いろいろな困難があったと聞いておりますけれども、それから数十年、こうして施設建設に向けた新たな一歩を進むことになり、神原先生、義家先生はじめ、16名の各代表の委員の方々、本当にありがとうございました。

そして先ほど他の委員から意見があったように、子供達から公園よりもまずはこの施設の方が楽しみだ、この施設は素敵だと言われるような、そんな施設にしていきたい。イメージはなかなかすぐには湧かないが、ぜひとも多くの方に足を運んでいただけるような施設になることを願っている。

今日まで、関係課の職員の皆様、また、ここまでの資料の作成などを担当していただきました各コンサルタントの皆さま、ありがとうございました。

私からは、施設に対して経費削減や技術的なことについて深くお話ができるようなことはないが、皆様の今日までの力強い話を受けとめ、委員長と一緒に提言書を市長のところにお渡ししたいと思うので、よろしく願います。

(委員長)

今日のご意見で、委員から文章を付け加えてほしいというところがあった。この変更については、委員長の私に一任していただいてよろしいか。

(委員から「はい」と呼ぶ者あり、他異議を申し出る者なし)

それでは私と副委員長で変更事項を確認の上、市長に提言書をお渡ししたい。

最後の委員会となるので、私の方からも一言申し上げる。

まずは皆さま、本当に御苦労さまでした。こういった会議は大学ではリスクコミュニケーションといい、安全工学の中の1つの授業でやっている。大学の学生は多人数なため、一人一人当てて発言してもらうことはできないが、住んでいる場所が違うだけでいろいろな意見が出る。いろいろな意見が出たほうがリスクコミュニケーションは成立する。今回も住んでいる場所はもちろん、仕事も立場も皆違うということで、非常にいいメンバーを選任した市役所の事務局の方に御礼申し上げます。

私も大学の授業でこういった事例、こういった仕事、委員長も何年かに1回引き受けるわけであるが、今回の事例を紹介して、高山はこのようにごみ処理施設を協議して建設したのだということを説明していきたいと思っている。皆様の今回の協議が実際に生徒の授業に生かされ、それも貢献になっていると捉えていただきたい。

これで建設検討委員会は終わりであるが、これは基本設計であることから、山腰課長が言われたように、今度は発注仕様書作成に入り、また事業者選定委員をお願いされる方々

もいらっしゃるのではないかと私は予想している。その際はいろいろな立場からのご意見を述べていただきたい。

それでは議事としては、これで終了する。

4. その他

(事務局)

委員の皆様におかれましては、約1年間、非常に長い間でしたが、積極的なご議論をいただきまして、誠にありがとうございます。提言書に記載のない意見も様々ありましたので、今後の設計に少しでも活かしてまいりたいと考えております。

今後の予定としましては、建設検討委員会を代表しまして、神原委員長と川原副委員長から8月25日に提言書を市長に提出していただく予定です。

また市としても、提言書を踏まえて早速基本設計(案)を作成して、パブリックコメントなどにより市民の皆様公表し、ご意見をいただいた上で最終的に高山市としての基本設計を決定します。そういった機会にも、またご意見いただければと考えておりますので、よろしく申し上げます。

5. 閉 会

委員の皆様には、各分野の団体の代表として、地域の代表として、公募での市民代表として、さまざまな分野から参画いただき、やっとここまで来ることができました。大変お忙しい中にも、委員会にご参集くだり、貴重な意見をいただきました。改めて御礼を申し上げます。

特に自主規制値を決めるときは、現場サイドの意見から、設備の簡略化やコスト的なことを考えて、1回目の提案をさせていただきましたが、皆様から「日本トップを目指して欲しい」ということで、調査の上、さらに厳しい規制値の提案をさせていただきました。また、コストについても「地元の安全・安心を得るためにも十分見合うコストではないか」という、素晴らしいご意見をいただいたこと、それはとても思い出に残っております。

実は、プラントメーカーに聞き取り調査をする中で、そんな数字は保証できませんよという会社もありました。ですがトップメーカーの皆様は、「それはやりましょう」と言っていたので、おそらく一流の設計をやっていただき、日本一のメーカーによる日本一の施設ができるのではないかと考えております。

皆様方の御苦勞に報いるために、これからしっかり設計を進めて、皆様の御意見を反映させていきます。皆様の期待を裏切らないような施設にして、きっと地元の皆様に理解をしていただけるような施設にしていきたいと思っております。

まだ完成までには4年半ぐらいかかります。これを一区切りして、これから実際の設計に入っていきます。建築の専門家の委員の方には、設計の方面でまた助けたいと思っております。地震対策についても、壊れない、災害に強い設備としてしっかり設計していきたいと考えております。

また、ごみの減量化や資源化などについても、今の世の中の流れに適応するよう、市民の方や事業者の皆さまのご協力をいただきながら、取り組みを進めていきたいと思っております。

提言については、今回の委員会で頂戴したご意見をふまえて、一部修正を行い、市にご

提出いただきます。その後、市で基本設計の決定を経て、事業者を決定する手続きに入ります。おそらく令和5年から、3年間程度建設工事を行う予定です。

皆様方のご期待に沿えるように進めてまいりたいと思います。

以上でごみ処理施設建設検討委員会を閉じさせていただきます。どうもありがとうございました。